



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/28 (月)	▲ 300	▲ 9,100	▲ 9,400	国庫短期証券発行・償還 (3M) 国債発行 (40年)			米: ニューヨーク連銀総裁、講演 欧: ユーロ圏マネーサプライ (10月)
11/29 (火)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				日: 完全失業率 (10月) 有効求人倍率 (10月) 小売売上高 (前年比 10月)
11/30 (水)	▲ 300	+ 8,700	+ 8,400	国債発行 (5年)	新型コロナ企業支援 ▲ 2,963		日: 鉱工業生産 (前月比 10月) 住宅着工件数 (前年比 10月) 米: GDP (3Q) ADP雇用統計 (11月)
12/1 (木)	+ 1,000	▲ 22,000	▲ 21,000	国債発行・償還 (2年)			日: 設備投資 (3Q) 米: 新規失業保険申請件数 (26日終了週)
12/2 (金)	+ 1,000	▲ 82,000	▲ 81,000	税保険揚げ 国債発行 (10年)			日: マネタリーベース (11月) 米: 雇用統計 (11月) 欧: ユーロ圏PPI (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、489兆8,600億円から始まった。その後、大きな変動要因はなく22日に491兆5,700億、24日に490兆4,700億と推移し、週末となる25日は、494兆3,400億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、3日積み要因剥落によりビットサイドの調達意欲の減退が見られ△0.001%の△0.072からスタートした。その後は地銀業態を中心に調達ニーズが強まることはなく、週を通して同金利は下降し25日には△0.075% (速報) となった。

ターム物は11月積み期前までの取引を中心に△0.070%~△0.060%のレンジで取引された。

来週の主な予定として、国内では29日に完全失業率 (10月) および小売売上高 (10月) の公表、30日に鉱工業生産 (10月)、12月2日にマネタリーベース (11月) の公表が挙げられる。海外では28日にユーロ圏マネーサプライ (10月)、30日にGDP (3Q)、12月2日にユーロ圏PPI (10月) の公表が挙げられる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.075 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は△0.09%台で始まり、過後半にかけて△0.10%台まで低下した。週末は国庫短期証券の入札が堅調であったことを受け、一時△0.13%程度まで買い進む動きが見られた。SC取引は2年435~442回債、5年146~154回債、10年350~368回債、20年179~182回債、30年65~76回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,000億円で、週間償還額 (約7,200億円) を大きく上回った。発行市場は、祝日により営業日数が少なかったものの、石油製品や鉄鋼、小売業等の幅広い業種で大型の発行が行われ、活況となった。発行残高は先週末の26兆8,928億円から、24日時点で27兆3,622億円に増加した。市場残高は引き続き高水準で推移しているものの、発行レートは、0%から小幅なプラス圏と横ばいでの出会いが中心となった。25日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0.001% (前回0.001%)、平均落札レート0.014% (前回0.021%) と平均落札レートが前回比で低下した。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (1兆2,500億円) を含み、約1兆4,400億円となっている。発行市場は、月末日の大量発行が見込まれるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅広いレンジでの出会いを予想する。

<TDB>

11月25日の3M (1123回債) の入札は、最高落札利回り△0.1303% (前回債△0.1117%)、平均落札利回り△0.1310% (前回債△0.1165%) となった。来週は12月2日に3M (1123回債) の入札がある。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005